

GLOCOM Letter

GLOCOM は、情報通信技術の発展と普及に根差した新しい情報社会の編成原理の研究を行う先端研究所です。原理原則に基づいた学術的研究と現実社会との実践活動を併せ持つ研究機関として特徴ある活動を行っています。GLOCOM Letter では、GLOCOM の研究・実践活動の中から、その時期の主なトピックを抜粋してご紹介します。

Topics

「GLOCOM View of The World シンポジウムシリーズ」の開催

GLOCOM View of The World では、すでにご案内している企業内セミナープログラム、研究ワークショッププログラムに加え、新たに「GLOCOM View of The World シンポジウムシリーズ」を実施することになりました。シンポジウムシリーズでは、激変するグローバル環境下の社会におけるさまざまな問題や課題の中から、GLOCOM 独自の視点で選んだ旬なテーマを取り上げる予定です。第1回は「炎上からみるネット世論の真実と未来」（6月28日開催）と題し、統計分析に基づく最新の研究成果・社会事象を踏まえ、“炎上”がネット世論にもたらす影響を通じて、ネットでの情報発信・議論の未来について論じます。続く第2回は、世界経済・社会への影響が大きく話題となっている「ブロックチェーン」をテーマに9月に開催予定です。詳しくは GLOCOM HP にてご案内します。

「ブロックチェーン経済研究ラボ」スタート

ブロックチェーン技術の応用による社会的・経済的影響に関する研究を推進する「ブロックチェーン経済研究ラボ」（Blockchain Economics Research Lab）をスタートしました。本研究ラボでは、ブロックチェーンの社会実装が経済・社会の諸側面にどのような影響を与えうるかを検討するため、広く知見を収集・発信し、ブロックチェーンの経済的・社会的側面の研究を推進します。研究サロンの定期開催（招待制）、公開セミナー／シンポジウムの開催、ホームページによる情報発信のほか、各種実証実験の実施等も予定しています。

「GLOCOM OPINION PAPER」発刊

日本や世界が抱える課題と社会の未来について、GLOCOM 独自のメッセージを発信する『GLOCOM OPINION PAPER』が発刊されました。観光、欧州問題、教育等、幅広いテーマを取り上げ、現在、GLOCOM HP にて No1~No3 を公開中です。

「アジア経済戦略研究」開始

沖縄県アジア経済戦略推進事業調査の採択を受け、沖縄県が実施するアジア地域の経済交流・産業振興に向けた「沖縄地域戦略構想」のもと、沖縄県の IT 振興に関する調査・コンサルティングを行います。

1 データ駆動型社会におけるビッグデータ研究

技術の飛躍的な進歩に伴ってめまぐるしく変化する社会におけるデータ利活用によるインパクトを、社会経済的な視点から調査・研究します。

「ブロックチェーンで変わる情報・価値・組織」研究

現在注目されているブロックチェーンの応用可能性とその社会的・経済的影響、効果的な導入方法などを明らかにするため、3月に「ブロックチェーン経済研究ラボ（BERL）」を始動し、公開セミナーの定期開催等を開始した。5月に米国NYで開催された「Consensus2016」に参加し、次世代コンピューティング基盤としての可能性等を確認するとともに、結果を公開セミナー等で発信している。また、『Biz/zine』にて「ブロックチェーンの可能性と課題」（<http://bizzine.jp/article/corner/68>）を連載中。今後は、公開セミナーに加えて国内の研究者・実践者を集めた研究サロンでの研究活動を推進し、9月にシンポジウムを開催予定。（高木聡一郎主幹研究員）

「感性ビッグデータ」研究

これまでのビッグデータ分析手法を発展させた「データドリブンな感性情報処理研究」の適用により、人間の行動、感性、知識とデータから導き出される知見とのコミュニケーションによる新知識創造社会の実現を目指す。特に、AIと人間のクリエイティビティの関係に着目し、将来、人間の創造性をどのようにAIで補い、どのようにAIと人間が協調しながら新知識創造社会を展開するべきかについて、最新の技術動向を抑えつつ、実際のシステムを構築しながら研究を推進する。6月末に岡山で開催されるIEEE/ACISのInternational Conference on Computer and Information Scienceで、自動作曲システムの実現についての発表を行う。（中西崇文主任研究員）

「ソーシャルメディア社会（ネット炎上×自由な情報共有）」研究

ネット炎上は、企業収益の悪化や芸能活動自粛、そして表現の委縮等の大きな影響があることから社会的関心が高い一方で、データを基にした実証的研究は少なかった。それを受け、炎上参加者数や炎上参加者属性等を実証分析した著書『ネット炎上の研究』（勁草書房）は高い注目を集め、取材対応や講演を多くやっていく中で、表現の自由、メディアと炎上の関係、青少年のリテラシー教育等、さらに広い領域に研究の裾野を広げている。6月末のシンポジウムでは炎上の実態とネット世論について取り扱う。また、新しく執り行った調査データを分析中であり、これまでに炎上参加動機の統計分析を行った。（山口真一研究員）



「フリー型ビジネスモデル」研究(フリーミアム 2.0)

基本無料のフリー型ビジネスモデルを採用しているサービスが急増している一方で、マネタイズ方法に不透明な部分が多く、失敗するサービスが後を絶たない。本研究では、消費者行動の定量的分析を行い、フリービジネス成功の核を検証する。現在、産業界と連携してデータを取得し、長期利潤最大化のための最適戦略や、新ビジネスモデルが既存ビジネスモデルに与えた代替効果について、実証分析を行って示唆を得た。今後、実践的なビジネス視点でのフォーカスポイントを踏まえ、産学双方で成果発表を行う。（山口真一研究員）

〔その他の個別研究テーマ〕

- ビッグデータにおけるテキスト分析
- オープンデータ研究
- 電子政府・国民ID研究／国際比較
- 「公」の政策に絡めた「民」のサービスの付加価値市場研究、等

2 知識創造型社会におけるプラットフォーム研究

ICT、AIの進展を前提とした成熟型知識情報社会研究。人間対AI、人間orAIではなく、人間とAIが共存・共働していく中で、いかに人間が創造性を発揮して社会課題を解決していくかを考えます。

「創造性教育」研究

産業がAIに吸収されていく中で、人間が担う知性や創造性とは何かが改めて問われている。ICTの革新を前提としつつ、創発的に活かす事が可能な知的生産性向上の方法や経営手腕とは何か？あるいは、日本の伝統的価値観学習観が見落としてきた要素とは何か？現在、諸外国事例や文献調査などを通じて、イノベーション教育や創造性教育の概念を整理中。今秋以降に企業人のための創造性教育プログラムとして共同研究を提供予定。「経験したことのない事象への対応能力＝レジリエント・ケパビリティ」にもその範囲を広げることを視野に入れている。学校教育の研究分野においては、学習者中心主義の1人1台情報環境について進学校での実践を調査。あわせてプログラミング教育に関する議論・考察を深めた。（豊福晋平主幹研究員・渡邊むつみ主任研究員）

「データ活用によるスマートシティの進化」研究

ICT企業がデータ活用の舞台として再注目する都市研究の一環で、京都で行われたスマートシティ・エキスポに参加。IoT、ビッグデータ、オープンデータを活用した政策事例や、コペンハーゲン、バルセロナ等の事例の紹介があった。また、ソウル、アムステルダム、ミラノ等で進んでいる、シェアリングエコノミーをデータ活用と絡めた都市政策「シェアリングシティ」についても、国内外事例に基づく研究を進めている。シェアリングエコノミーについては、支持も高いが、大きく3つの観点から批判がなされている。政策の大枠を概観したうえで事例紹介し、課題を整理・類型化することを検討中。途中経過は、「地域SNS研究会」ブログ（www.local-socio.net）にて紹介している。（庄司昌彦主任研究員）

Innovation Nippon GLOCOM x Google

4年目を迎えたInnovation Nippon（www.innovation-nippon.jp）では、①ITと選挙、②ネット上の自由な情報発信・共有がもたらす影響および発展的政策の検討、をメインテーマとして活動を推進する。①では日本の選挙における課題調査に加え、国内外比較調査も踏まえて、IT活用による課題解決策と日本での導入方法を検討する。②ではネット上の自由な情報発信・共有がコミュニケーションや消費活動に与えた影響を計測し、最適なネットガバナンスを検討する。①、②の成果は、12月頃にそれぞれ開催するシンポジウムで公表予定。また、地方創生等の分野でITを活用したイノベーターを紹介する動画「Innovator's Voice」を今年も制作し、Youtubeにて配信予定。

〔その他の個別研究テーマ〕

- 高齢化社会研究－認知症フレンドリー社会、アクティブシニアの社会参加、地方と都市
- 北欧社会研究－成熟型社会先進国としての北欧研究、社会保障やIT政策、イノベーション、公共と民間の共働等
- イノベーション行動科学研究／対話型集合知研究／合意形成科学研究、等

3 グローバル時代の "70 億新市場 " 戦略研究

大変化の時代に向けて、先進国12億市場に代わる巨大な新興国市場を中心とした世界の新秩序を研究し、中長期的な視点から企業の新しい未来戦略研究を考えます。

中国戦略研究会 (GLOCOM China Strategy Forum: GCS)

日中の専門家を招き、中国の本質をマクロの視点から理解したうえで、異業種メンバーと共に日本企業がとるべき新たな戦略基軸の検討を行って好評を得た第1シリーズを継承し、最新の中国経済情勢を踏まえながら、第2シリーズを準備中。加えて、中国現地の日系企業の経営幹部を対象に、上海フォーラムの開催準備も進めており、こちらでは、東京フォーラムでのマクロ的視点を踏まえつつ、現地ならではのミクロ的な問題・課題も取り上げる形で企画している。東京、上海とも、今秋スタートを予定。

〔その他の個別研究テーマ〕

- アセアン・インド研究／中東・アフリカ研究
- 国際紛争・難民問題研究、等



セミナー / ワークショップ / 公開イベント

企業内セミナー【有料】：先端・先進の研究テーマをオンサイトでビッグデータ・オープンデータ利活用や、ブロックチェーン、認知症に関する取り組みなど、GLOCOMがここ数年で取り上げた情報社会学を中心とした研究成果を織り交ぜ、国内外の社会の大きな変動を捉えるプログラムです。社会の様々な変化を認識し、視野を拡大するとともに、それらがビジネスに及ぼす影響と今後の動きに対する感度を高める機会を内部集合研修としてご提供します。詳しくはwww.glocom.ac.jp/news/1229をご覧ください。

研究ワークショップ【有料】：

先端・先進のテーマにあわせて産官学の専門家が集う年間プログラム。情報技術の発展から生まれる新しいネットワーク社会の編成原理から未来を展望し、広い視野から高感度経営を目指す年間12回から構成されるプログラムです。GLOCOM研究者ネットワークによる産官学の多様なバックグラウンドをもつ講師陣と、参加企業の皆様と、ともに専門的思考を深めあう、異業種間・マルチセクターをつなぐ交流の機会をご提供します。※現在2016年10月開始のプログラムを準備中です。詳しくは、後日、GLOCOM HPよりご案内いたします。

公開コロキウム / シンポジウム【無料】：

先端・先進のテーマをみなさまへGLOCOMでは、特に注目すべき先端・先進的なテーマを取り上げ、より広く共有するために無料のコロキウム / シンポジウムを適宜開催しています。詳しくはwww.glocom.ac.jp/eventsをご覧ください。

GLOCOM PUBLICITY 国際大学 GLOCOM の発行物のご案内

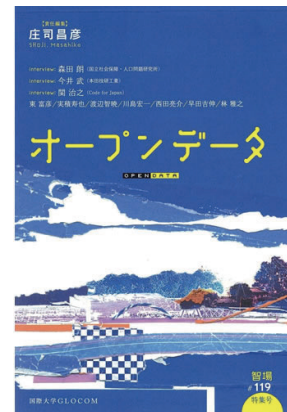
智場（ちじょう）

「智場」は、情報社会の最新動向や研究成果を広くお知らせするために国際大学 GLOCOM が発行している機関誌です。

- 119号「オープンデータ」
- 120号（最新号）
- 「子どもの未来と情報社会の教育」

いずれも定価 1200円

※ Amazonにてお買い求めいただけます。



GLOCOM OPINION PAPER

日本や世界が抱える課題と社会の未来について、幅広い分野にわたり、OPINION PAPERという形で GLOCOM 独自のメッセージをお伝えしています。

- GLOCOM OPINION PAPER2016_No.1「数値目標だけを一人歩きさせない観光戦略を」
- GLOCOM OPINION PAPER2016_No.2「情報社会と難民・サイバーカスケード・拡散するデマとどう向き合うか」
- GLOCOM OPINION PAPER2016_No.3「学校運営改革の動向とその行方」

※ GLOCOM HPよりご覧いただけます。

GLOCOM 研究員の外部委員活動等のご紹介

中西崇文

- ・総務省・AIネットワーク化検討会議（旧 ICTインテリジェント化影響評価検討会議）委員

庄司昌彦

- ・内閣官房・IT総合戦略室 オープンデータ伝道師
- ・総務省・平成 28年度地域情報化アドバイザー
- ・総務省・平成 28年度 ICT地域マネージャー（派遣先：静岡県掛川市）

砂田薫

- ・総務省・情報通信行政・郵政行政審議会 専門委員
- ・経済産業省・産業構造審議会情報経済小委員会「分散戦略ワーキンググループ」委員
- ・総務省・「IoTサービス創出支援事業」の評価に関する会合 構成員
- ・独立行政法人科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センター（RISTEX）領域アドバイザー

渡辺智暁

- ・総務省・AIネットワーク化検討会議（旧 ICTインテリジェント化影響評価検討会議）委員

GLOCOM

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター

Center for Global Communications, International University of Japan

〒106-0032 東京都港区六本木6-15-21 ハークス六本木ビル2階

TEL : 03-5411-6677 FAX : 03-5412-7111

<http://www.glocom.ac.jp/>

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター（GLOCOM）は1991年に国際大学の付属研究機関として設立されました。

所長：庄野次郎

主な事業概要：受託研究、共同研究、研究セミナー、会員事業 他

The
New
GLOCOM
innovative changes